1 株式会社そごう・西武

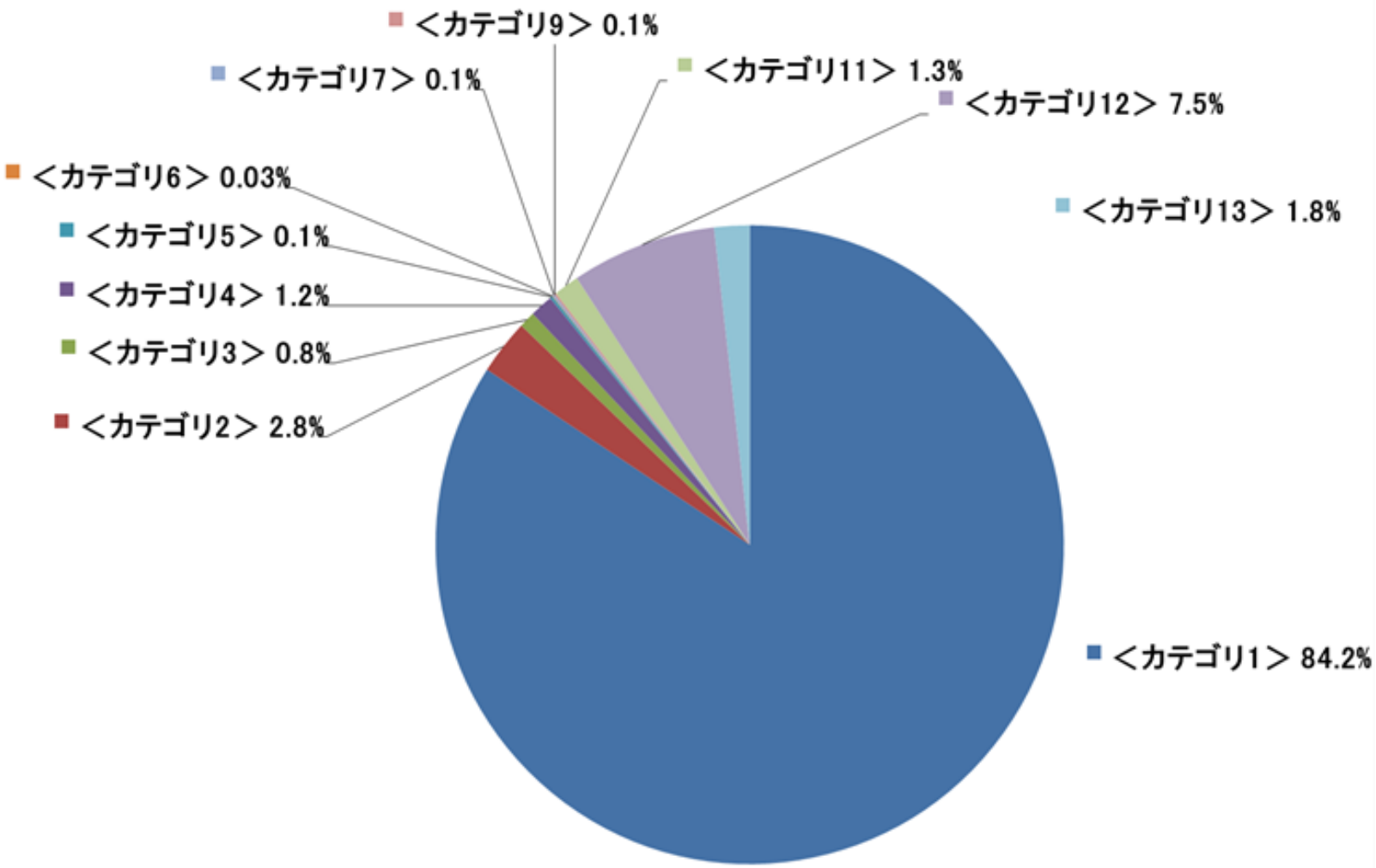
	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	● サプライチェーン全体からのCO2排出量を把握する。 ● ステークホルダーからの情報開示要請へ対応する。
□ 算定結果の活用方法	● サプライチェーン全体でのCO2排出量削減対策に活用する。 ● 算定結果の開示により、当社の環境活動に関する理解促進と信頼性向上に活用する。 ● 各種アンケート・調査への回答として活用する。
□ 算定のメリット	● お取引先と連携したCO2排出量削減対策が促進される。 ● 各カテゴリーのCO2排出量削減ポテンシャルを把握することで、効率的なCO2排出量削減対策を策定できる。 ● 経年の算定・評価結果を中長期的な計画に反映できる。 ● 当社の環境活動に関する理解が促進される。 ● ステークホルダーからの信頼性が向上する。 ● 各種アンケート・調査への回答が可能となる。
□ 社内の算定体制	● 算定するカテゴリーの抽出と算定範囲の特定（CSR・CSV推進室） ● 各カテゴリーの原単位選定（CSR・CSV推進室、総務部） ● 算定期間の活動量データの収集と算定（関連部門） ● 各カテゴリーのCO2排出量算定（CSR・CSV推進室、総務部）

2 株式会社そごう・西武

	各社の考え方
□サプライチェーン排出量の削減に向けて	● スコープ1及び2については、BEMS活用や夏期冷房緩和等の運用対策の継続に加え、LED照明を店内改装や老朽化更新にあわせて導入し、排出を削減する。 ● スコープ3においては、カテゴリ1「購入した製品・サービス」が最大の排出（84.1%）であり、サプライチェーン全体からのCO2排出量削減には、商品調達段階で素材・製造工程等を考慮する必要がある。当社選定基準に基づく環境商品の拡販に継続して取り組む。
□サプライチェーン排出量算定の課題	● 金額を活動量とした算定は、取り組み成果が算定結果に反映されにくい。算定精度向上に向けて、取り組み成果がCO2排出量として反映される原単位をお取引先と共に開発する必要がある。
□その他（任意）	● 当社では「グリーンラッピング※」「グリーンカーテンプロジェクト」「打ち水大作戦」など、お客さまと共に取り組み、その必要性を伝える環境活動を推進。これらの取り組みによるCO2削減貢献量も評価可能な算定ガイドラインが策定され、社会全体でCO2削減貢献活動が推進されることに期待。 ※グリーンラッピング 「地球環境を考える」というメッセージもあわせて贈ることができるギフトラッピング。リーフマスコット付リボン100円の内50円が植樹活動に寄付される。

3 株式会社そごう・西武

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 商品種別売上高、包装材等調達費	● 金額当たり排出原単位
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資金額	● 資本財当たり排出原単位
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● エネルギー量当たり排出原単位
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 輸送重量×輸送距離	● 輸送重量×輸送距離当たり排出原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別処理方法別排出量	● 廃棄物排出量当たり排出原単位
カテゴリ6「出張」	● 移動手段別出張費支給額	● 出張費支給額当たり排出原単位
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 移動手段別出張費支給額	● 交通費支給額当たり排出原単位
カテゴリ8「リース資産（上流）」	スコープ1及び2として計上	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 輸送重量×輸送距離 ● 燃料使用量	● 輸送重量×輸送距離当たり排出原単位 ● 燃料使用量当たり排出原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	算定対象外	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 衣料品重量×クリーニング回数	● 衣料品重量×クリーニング回数当たり排出原単位
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 廃棄物種類別排出量	● 廃棄物排出量当たり 排出原単位
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● テナントのエネルギー使用量	● エネルギー量当たり排出原単位
カテゴリ14「フランチャイズ」	算定対象外	
カテゴリ15「投資」	算定対象外	

4 株式会社そごう・西武

算定結果